

【解説】これは、我々の頭上でほとんど連日起こっている、ケムトレイル散布/気象操作という、何者かによる不可解な行動を、かなりの程度、解明してくれる論文である。その背後に、ヒトラーやスターリンに比せられるが、実はもっとしたたかな計画性を持つ「グローバリスト」（地球乗っ取りスト）集団が存在することを、この論文は明らかにしている。日本人の大多数は、こういう問題が存在することさえ知らないように思える。メディアが何も言わない以上は、知らなくてもよいということか？「象が部屋に入ってきて、そんなものは認めない」ということか？

カリフォルニア：気象操作による砂塵地帯

Paul Adams, J. D. (geoengineeringwatch.org 活動家による寄稿)

March 25, 2014



(Photo by Paul Adams)

2013年9月の雨季の始まり以来、カリフォルニアの住民はほとんど毎日のように、ひどい気象操作とケムトレイル活動にさらされている。これによって農業の奇跡「黄金の州」と呼ばれた土地は、乾ききった砂塵地帯に変わってしまった。

太陽は毎日出ている、気温は通常を大きく超えている。しかし空は灰色、地平線は銀色で、しばしば、ほんの数マイル先の山を見ることができない（いわゆるグレイアウト）。地方の天気予報士たちは、予想は晴れで、「もや」あるいは「高い雲」がかかるでしょうと言うが、これが彼ら（NASA/NOAA）のケムトレイルの呼び方だ。

我々の隠れた支配者たちは、公然と、彼らの神のような力を自然に対抗させている。もし歴史が導きになるとすれば、この作られた早魃は、水と食物の人為的な希少性（価値）をつくり出すことに利用されるであろう。石油やダイヤモンドなどの自然資源のように、この人為的希少は、一握りの企業の利益増大と、政府/企業の民衆に対する支配力強化を生み

出すであろう。ヨシフ・スターリン、アドルフ・ヒトラー、ヘンリー・キッシンジャーが知っていたように、食糧に苦しんでいる民衆は、自分たちの政府や、その背後の隠れた権力構造の犯罪に、反対することはあまりない。人類と自然界は気象操作という攻撃にさらされ、我々の生存そのものが賭けられている。

気象操作とケムトレイルが旱魃をつくり出している

気象学者たちは、2013–2014年の降雨シーズンは、過去400年以上の間で、カリフォルニアの最も少ない降水量を記録しそうだと報告している。2013年にはカリフォルニアには平均4インチ強の降水量しかなかった。ロサンゼルス商業地区では、通常は年15インチの雨が降るが、2013年には3.6インチに留まった。これは、カリフォルニアが1850年に州に制定されて以来、最も乾燥した期間になっている。

この極端な旱魃が、前例のない気象操作とケムトレイル活動に時期的に一致するのは、決して偶然ではない。「カリフォルニアを標的とする操作された旱魃」(2014/1/24 本欄参照)で、GeoengineeringWatchのデーブ・ウィギントンは「意図的に起こされた旱魃は天候戦争である」と言っている。カリフォルニアの旱魃は次の方法によって起こされる――

絶えまないエアロゾル散布と、イオン圏ヒーター (HAARP) をコンビで用いることによって、気象を操作する者たちは、水蒸気がカリフォルニアに流れてくるのを効果的に遮断している。なぜだろうか？ 一つは、カリフォルニアはおそらく気象の“犠牲ゾーン”である。これは、カリフォルニアが副次的損傷 (collateral damage) であって、アメリカのもっと東部で、人工的につくり出された吹雪が絶えず起こっているのに付随するものであることを意味する。気象操作をする者たちがアメリカ西部と東太平洋上空に固定させた、雨をブロックする高気圧の峰が、ジェット気流をまっすぐに北に押しやり、それは水蒸気を一緒に連れていくので、雨がカリフォルニア近くにやってくることができなくなっている。この水蒸気はやがて、アラスカや北極までも移動していく。ジェット気流はそこで、南へ戻されるが、そのときそれは HAARP/イオン圏ヒーターがつくり出した高気圧のドームを、時計回りに包み込むように廻っていく。そのときそれは、ずっと下のアメリカ南部にまで押し出され、そのさい、それは濃密に散布物質を含む、化学的に氷を核とする水蒸気を一緒に運ぶので、それがアメリカ南部の人工的な冷却効果を高めるのである。



デーブはまた、旱魃の間は、水もなく食糧を植えることもできない民衆は、その政府の犯罪に効果的に抗議できるような立場にないことを指摘している。カリフォルニアは歴史的に、国家の食糧供給に大きく貢献してきたので、この破局的な旱魃は、非常に広範囲な影響力をもつ。食糧供給をコントロールする者は、民衆をコントロールする。この他に、カリフォルニアと西部の他の領域の水利権をコントロールしようとする、政府による試みが次第に顕著になっている。

重要なことは、2011年にロスチャイルドLLC——サー・イヴリン・ド・ロスチャイルド会長と重役リン・フォレスター・ド・ロスチャイルド（悪名高い人形師、ロスチャイルド一族）の率いる私的投資会社——が、Weather Central, LP（相互天候グラフィックスや、テレビ、ウェブ、モバイルのためのデータを提供する世界の大手私企業、リンク）の70%の株を取得したことである。

ロスチャイルド一族はなぜ、最大で最も信用された天候モデリング組織を所有したがるのだろうか？ 理由は、もしあなたが天候を徐々に破壊する気象操作計画（リンク）に関わっていたとしたら、自分のやったことの跡を消すために、あなたは“予報”モデルをもコントロールしなければならないからである。

国防省契約業者の Raytheon が、米国立気象局と米海洋大気局（NOAA）のために、すべての“予報”モデリングをやっている。ロッキード・マーチン社（Lockheed Martin）がFAA（連邦航空局）のために、そのモデリングをやっている。これら私的な国防省契約業者は、天候操作の特許とプログラムに首まで浸かっているから、いわゆる“予報”とは、大なり小なり“計画された”天候のことである。いま、ロスチャイルド一族が有力な、私的モデリング組織を手に入れたことによって、天候“モデリング”のコントロールは完全になったと考えられる。この“予報”と“グラフィックス”のコントロールは、民衆が絶え間ない散布や、自分たちの天候の操作を、“通常”のこととして受け入れ易くするための、絶えざる視覚的な条件付けとして働く。毎夜の天気“予

報アニメーション”が、絶え間ない散布から生ずる上空の“もや”や“うす曇り”に至るまで、民衆が空に見るものに一致すると、すべては当たっているように見え、それ以上疑問にされない。

兵器としての食糧

歴史が明らかに示しているのは、隠れた権力構造が、権力を固め絶対的な専制支配を布くために、目標とする人民に対し、食糧を武器として用いることである。大衆から食糧を奪うために、彼らがそれを植え収穫することができないようにすることができる。それには人工的な旱魃もあり、それを汚染させたり、人間の食用として不適當なものにしたり、目標とする人民への配給を単に差しとめることもできる。

ヨシフ・スターリンは、1932年と33年に、彼独自のソヴィエト式ホロコーストを行い、推定600万から2000万のウクライナ人民を餓死させたが、それは、彼らが彼ら自身の国民国家を持つとする欲求を挫くためだった。

権力を手にすると、スターリン共産主義体制は急速に食糧生産を国営化し、その地域の農場のすべてを強制して集団農場にした。こうしてスターリン式のホロコーストは実を結んだ。歴史上これは「ホロドモール」Holodomorと呼ばれ、たった2年間に何百万という人々が死んだが、これはソ連政府の、食糧と食糧生産コントロールによる、ウクライナ人根絶政策の始まりだった。

ヒトラーもまた、大衆の功績を称揚し失敗を罰するため、また好ましい階級を養成するために、食糧配給券を発行することによって、食糧をその手段に用いた。ヒトラーの軍隊が最も多くの配給券を受け、ドイツの戦争機械の製作のために重要な産業に従事する技術者たちが、その次に豊かな食糧配給を受けた。そして囚人たちが最も低く見積られたナチスの配給券を与えられた。

食糧配給券はまた、工業生産を促進するための手段としても用いられ、生産的なナチ労働者を称揚しようとする時には、その点数が上がった。逆にナチスの生産目的に合わないときは、それは下げられた。ヒトラーは、心理学者が階級的条件付けと呼ぶものを利用して、ドイツの民衆の意志を、パブロフの犬の状態に低下させ、彼らは生き残るために全面的に政府に依存するように条件づけられた。

ヒトラーも共産主義の台頭も、全面的にアメリカの銀行家、政治家、それに産業界に依存していたことを理解しなければならない。歴史を本当に知っているという人々が、簡単に

アメリカの唯我独尊主義を見過ごしている。

アメリカ政府による兵器としての食糧の利用は、1974 年以来、公的な米政府の隠れた政策として存在した。

1974 年 12 月、ヘンリー・キッシンジャーの指揮する国家安全保障会議は、極秘研究である「国家安全保障研究メモ 200——アメリカの安全保障と海外利権にとって世界の人口増加の意味するもの」(リンク)を完成させた。この研究は、低開発国の人口増加はアメリカの国家安全保障にとって深刻な脅威だという、虚偽の主張に基づくものだった。

1975 年 11 月、フォード大統領は、NSM 200 (国家安全保障研究メモ 200) の趣旨に基づいて、産児制限、戦争、飢饉によって、低開発諸国の人口増加を強制的に引き下げる極秘の計画の概要を作った。フォードの新しい国家安全保障アドバイザー、ブレント・スコウクロフト (Brent Scowcroft) は、CIA (米中央情報局) 長官ジョージ・H・W・ブッシュと連携して、この計画の実行を委託され、国務、財務、防衛、農産の各長官が、こうした狂ったジェノサイド計画の実現の片棒を担いだ。

NSM 200 は正式に、「食糧は国家権力の道具と考えられるか?…アメリカは、人口増加を自分でコントロールできない/しない民族を助けるために、食糧配給制度を受け入れる用意があるか?」という問題を提起した。キッシンジャーはこれに対し、自分は一連の計画による人工的な飢饉を预言するものであり、これは産児制限だけに頼る計画を不要にするものだと答えた。

キッシンジャーと彼の配下が、外交問題評議会 (CFR) でアメリカの政策にいまだに大きな影響力をもっている以上は、人工的な旱魃による食糧の価格高騰は、災難の序の口にすぎないかもしれない。

水資源の私有化計画

隠れた支配者たちが食糧を兵器に用いることは知られているが、彼らはまた人工的な旱魃を、水資源の私有化計画に用いる準備をしている。すなわち、気象操作をしなくても自然にタダで落ちてくる水に、法外な値をつけることによって、何十億という利益を上げる方法である。世界銀行や Veolia のような強力な企業は、これに参加したがつている。

ジェシー・ヴェントゥーラ (Jesse Ventura) の調査によるテレビ番組の、重要な五大湖の場面で、巨大企業の乗っ取り屋/ウォール街の asset stripper の “ティー・ブーン・ピケン

ズ” (T. Boone Pickens、リンク) は、自分はテキサスの主要な都市周辺の貯水池地域をほとんど買占めており、もし庶民が水の料金を払わなければ、「水は止まります」(13:15 時点) と豪語した。ピケンズはまた、仲間の政治家と協力し、著名な勢力圏を利用して、テキサスの各都市に“彼の” 水を送るのに必要な、すべての土地を手に入れると言っている。

http://www.youtube.com/watch?v=tx65EeLk4Ro&feature=player_embedded

i

ヒトラーへの財政援助、9.11 自作自演、「死のハイウェイ」(すべてリンク) など有名なブッシュ族は、南米と世界で最大の帯水層 (リンク) *Acuifero Guaraní*——アルゼンチン、ブラジル、パラグアイ、ウルグアイの下を走っている——の 30 万エーカーを購入している。水の供給を独占する (リンク) のでなかったら、ブッシュはパラグアイに何の用があるのだろうか？

もし利益を得、人民を支配する目的で、旱魃を人工的に作り出すというようなことが、ジェイムズ・ボンドの映画のように聞こえるとしたら、それはその通りなのだ。映画『007 慰めの報酬』で、敵はボリビアの淡水源を占領し、これによって、政府と市民に対する巨大な支配力を獲得する。この映画は、気象操作によって生ずる将来の水戦争による民衆/文化の創造を、予言する計画だったのかもしれない。

権力グローバリストは、淡水を、青い金と考えており、ケムトレイルによる気象操作は、この人為的希少性というマルサスの悪夢を、現実のものにするために用いられている。

巨利を得るための、遺伝子組み換えによる旱魃耐性種子

2011 年 12 月、USDA (米農務省) は、モンサント社の 87460 遺伝子組み換え旱魃耐性トウモロコシ (リンク) を承認した。おそらく気象操作による旱魃は、その危険が十分に証明されている (リンク) モンサント社の遺伝子組み換え産物の、需要を創り出すために用いられている。

面白いことは、グーグルの共同創始者であるセルゲイ・ブリン (Sergey Brin) が、世界で最初の実験室製のハンバーガーに資金を出したことである。このインターネットの企業家はこのプロジェクトを支援するのに、25 万ユーロ (21 万 5 千ポンド) ものカネを出し、科学者たちに、ハンバーグを作れるほどの肉を実験室で作らせた——実現可能性を示すために。これは昨年ロンドンで料理され試食された。

この実験室製の肉の、環境に対するインパクトの算定はまだ発表されていないが、初期の

試算では、この培養肉は、土地と水の必要性を 90%も削減し、全体のエネルギー消費を 70%まで減らすことができる。

セルゲイは、カリフォルニア旱魃が、気象操作によるものであることを知っているのだろうか？

気象操作/ケムトレイルの本流に乗る

あまりにも多くの気象操作とケムトレイルの情報が、インターネット上に出ているので、権力グローバリストたちは、今、密かな作戦から大っぴらな作戦に方向転換しつつある。この計画は、気象操作によって極端な天候をつくり続け、この“気象変化”を、炭素税のような暴政的税制を実現させるために、正当な理由として利用することである。問題を創り出し、望まれる一般の反応が起こったら、そこで、グローバリストが最初から用意していた解決法を押しつける、というものだ。

炭素税の宣伝屋アル・ゴア (Al Gore) や、狂った科学者デイヴィド・キース (David Keith、[リンク](#)) は、最近、TV番組に出演し、“気象変化”と“地球温暖化”に対処するために気象操作が必要なのだと主張している。インタビューのとき、彼らは平気で堂々とウソをつき、大規模な気象操作作戦はまだ行われていないと言っている——少なくとも 1990 年代以来、彼らはずっとこれを続けているにもかかわらず。デイヴィド・キースは、極微物質を大気圏に散布することで人が死ぬ可能性があると認めるが、それは同時に、気象変化による死を防ぐこともできると曖昧な主張をする。

アル・ゴアは、気象変化を人工操作することの危険を論ずることなしに、気象変化の危険を論じ続けている。最近彼は、「我々が行動しないと、砂塵地帯 (Dust Bowl) がすみやかに戻ってきつつある」([リンク](#)) と警告した。実は、砂塵地帯が戻ってきたのは、“彼ら”が旱魃を人工的に引き起こしたからである。

デイヴィド・キースは、CIAに友好的なワシントン・ポスト紙にも論陣を張っている。彼の論文の一つは「気象操作の一つの問題：一度始めたら止めることはできない」([リンク](#)) と題されている。したがってグローバリストたちは、誇大妄想に取りつかれていて、無期限に神を演ずる計画をしているのである。

結論

カリフォルニアの旱魃は、生きるのに不可欠な食物と水を意図的に希少なものにするため

に、気象操作されたものであることを、私たちは人々に伝えなければならない。これは更に大きな、企業/政府による人民コントロールと、特定の少数の企業の更なる利益増大をもたらすであろう。それは大規模な、政府による大量殺人につながる可能性さえある。

現時点において、**自然の天候というものはない**。我々はすべて“天候戦争”の犠牲者であり、**有害な金属降下物に毒され続けている**。